第6講

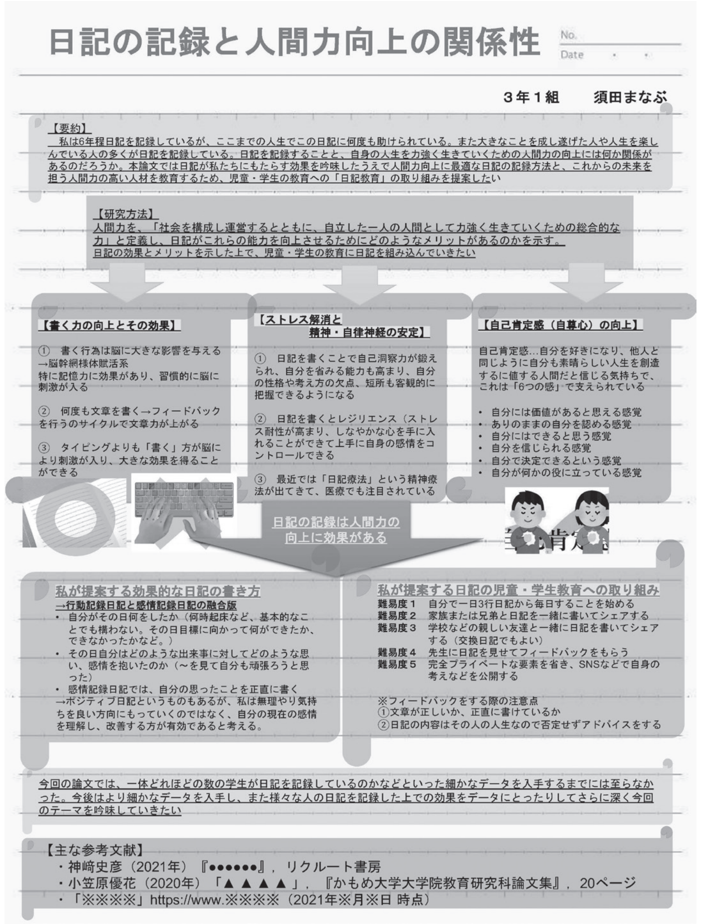
プレゼンテーションのイメージトレーニング

チャプター1 模擬プレゼンテーション①

チャプター2 解説

例を見てみよう

○ポスター例



日記の記録と人間力向上の関係性

No.

Date ・ ・

3年1組　須田まなぶ

【要約】

私は6年程日記を記録しているが、ここまでの人生でこの日記に何度も助けられている。また大きなことを成し遂げた人や人生を楽しんでいる人の多くが日記を記録している。日記を記録することと、自身の人生を力強く生きていくための人間力の向上には何か関係があるのだろうか。本論文では日記が私たちにもたらす効果を吟味したうえで人間力向上に最適な日記の記録方法と、これからの未来を担う人間力の高い人材を教育するため、児童・学生の教育への「日記教育」の取り組みを提案したい

【研究方法】

人間力を、「社会を構成し運営するとともに、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力」と定義し、日記がこれらの能力を向上させるためにどのようなメリットがあるのかを示す。

日記の効果とメリットを示した上で、児童・学生の教育に日記を組み込んでいきたい

【書く力の向上とその効果】

① 書く行為は脳に大きな影響を与える
→脳幹網様体賦活系
特に記憶力に効果があり、習慣的に脳に刺激が入る

② 何度も文章を書く→フィードバックを行うのサイクルで文章力が上がる

③ タイピングよりも「書く」方が脳により刺激が入り、大きな効果を得ることができる

【ストレス解消と精神・自律神経の安定】

① 日記を書くことで自己洞察力が鍛えられ、自分を省みる能力も高まり、自分の性格や考え方の欠点、短所も客観的に把握できるようになる

② 日記を書くとレジリエンス（ストレス耐性が高まり、しなやかな心を手に入れることができて上手に自身の感情をコントロールできる

③ 最近では「日記療法」という精神療法が出てきて、医療でも注目されている

【自己肯定感（自尊心）の向上】

自己肯定感…自分を好きになり、他人と同じように自分も素晴らしい人生を創造するに値する人間だと信じる気持ちで、これは「6つの感」で支えられている

- 自分には価値があると思える感覚
- ありのままの自分を認める感覚
- 自分にはできると思う感覚
- 自分を信じられる感覚
- 自分で決定できるという感覚
- 自分が何かの役に立っている感覚

日記の記録は人間力の向上に効果がある

私が提案する効果的な日記の書き方

→行動記録日記と感情記録日記の融合版

- 自分がその日何をしたか（何時起床など、基本的なことでも構わない。その日目標に向かって何ができたか、できなかったかなど。）
- その日自分はどのような出来事に対してどのような思い、感情を抱いたのか（～を見て自分も頑張ろうと思った）
- 感情記録日記では、自分の思ったことを正直に書く

→ポジティブ日記というものもあるが、私は無理やり気持ちを良い方向にもっていくのではなく、自分の現在の感情を理解し、改善する方が有効であると考える。

私が提案する日記の児童・学生教育への取り組み

難易度1　自分で一日3行日記から毎日することを始める
難易度2　家族または兄弟と日記を一緒に書いてシェアする
難易度3　学校などの親しい友達と一緒に日記を書いてシェアする（交換日記でもよい）
難易度4　先生に日記を見せてフィードバックをもらう
難易度5　完全プライベートな要素を省き、SNSなどで自身の考えなどを公開する

※フィードバックをする際の注意点
①文章が正しいか、正直に書けているか
②日記の内容はその人の人生なので否定せずアドバイスをする

今回の論文では、一体どれほどの数の学生が日記を記録しているのかなどといった細かなデータを入手するまでには至らなかった。今後はより細かなデータを入手し、また様々な人の日記を記録した上での効果をデータにとったりしてさらに深く今回のテーマを吟味していきたい

【主な参考文献】

・神﨑史彦（2021年）『●●●●●●』，リクルート書房
・小笠原優花（2020年）「▲▲▲▲」，『かもめ大学大学院教育研究科論文集』，20ページ
・「※※※※」https://www.※※※※（2021年※月※日 時点）

生徒メモ欄

教員記入欄

書き込んでみよう

○ 模擬プレゼンテーション①の観察をしよう

	プレゼンテーションの内容をメモしましょう	気になるところをメモしましょう
問題提起 課題発見		
対象・方法 提示		
結果・分析 ・考察		
結論		

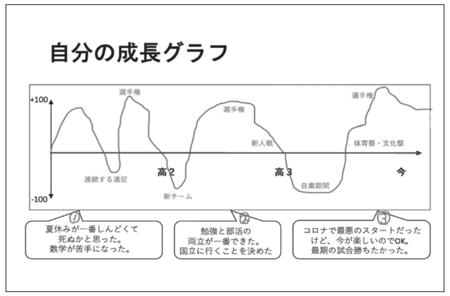
生徒メモ欄

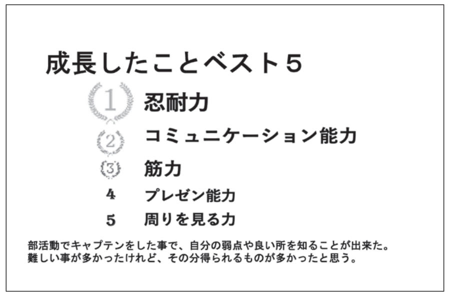
教員記入欄

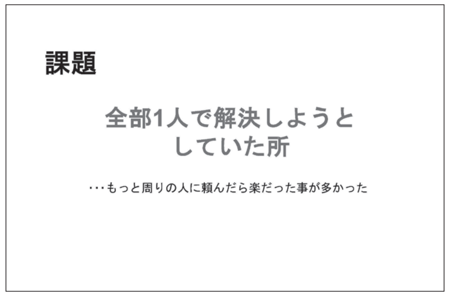
チャプター2 模擬プレゼンテーション②
チャプター3 解説

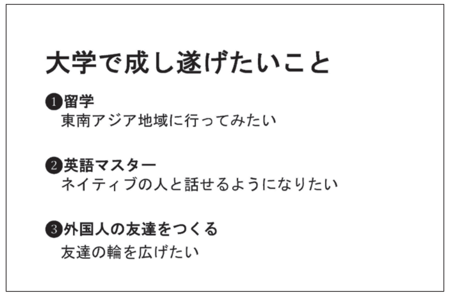
例を見てみよう

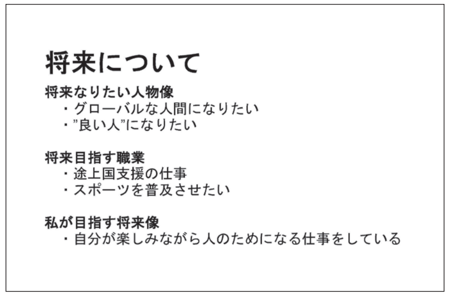
○ スライド例











生徒メモ欄

教員記入欄

書き込んでみよう

○ 模擬プレゼンテーション②の観察をしよう

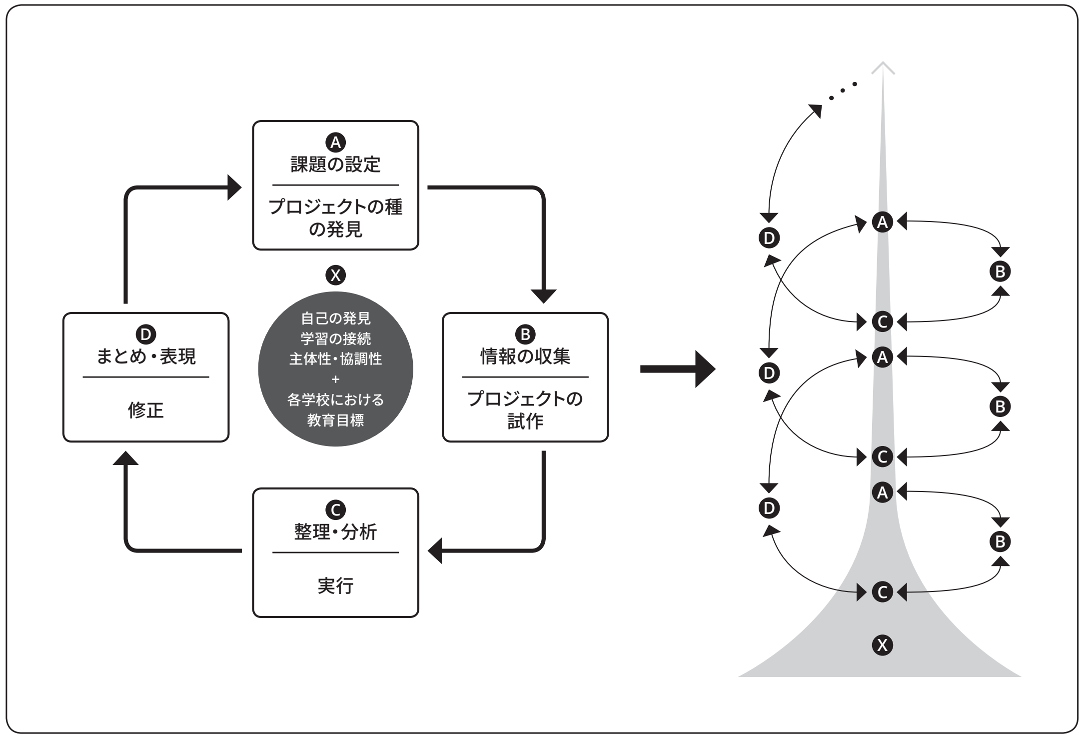
	プレゼンテーションの内容をメモしましょう	気になるところをメモしましょう
問題提起 課題発見		
対象・方法 提示		
結果・分析 ・考察		
結論		

生徒メモ欄

教員記入欄

おわりに

　プレゼンテーション試験は、総合型選抜・学校推薦型選抜に向けて取り組んできた探究・研究活動の「集大成」です。特定のテーマに基づいて、どういう問題意識のもとに課題を見出したのか、どういう仮説をもとに検証を重ねたのか、その結果どういうことをもたらしたのか、そして今後どうすべきか。その過程でどういうことを考え、感じ、行動に移してきたのか、プレゼンテーションを通して相手に伝わります。
　この講座では、総合型選抜・学校推薦型選抜の試験の中で学問を探究する素養があるかどうかが見抜かれるプレゼンテーション試験の勘所をお話ししてきました。科学者の視点で探究・研究活動の様子を眺め、事実（fact）と主張・意見（opinion）を冷静に仕分け、どう自覚し、編集するのかということが大切であるということが理解できたのではないでしょうか。
　プレゼンテーションの会場では、あなた一人が戦うわけではありません。内容と表現次第で評価者を仲間にすることもできますし、敵にすることもできます。この講座で私が伝えたかったのは「本気で探究・研究をしてきたあなたなら、科学者としての自分の有り様を見つめることができる」ということです。もちろんプレゼンテーションそのものに緊張する心情はわかります。しかし、それを越えて「未来の有り様」まで思索を巡らせたあなたなら、心配することはありません。その思いを誠実に、熱意を持って伝えてきてください。
　総合型選抜・学校推薦型選抜に関わる試験の多くは運や状況に左右されがちですが、プレゼンテーションは事前準備ができる試験ですから、伝えたいことが伝わりやすい類のものです。ですから、丁寧な仕込みをしておけば、実力以上の成果が出やすいとも言えるでしょう。私の講座を受講した受験生であれば、問題なく実力を発揮することができると思います。
　プレゼンテーションの試験を準備する過程の中で、あなたははるかに成長したはずです。今までの探究や研究活動を経て、探究のトルネードを巻き起こしたのです。自らの力で課題を決め、各種情報を収集・整理・分析し、まとめ、未来像を描く中で、自己を見つめたり、自らの力で世界をつくろうと試みたり、ともに世界をつくる仲間を見つけたりしながら、世界に横たわる傷と向き合ったり、さらなる謎を見つけたりしてきたはずです。その過程で体験したり、文献を講読したり、他者と対話しながら、新たな知をつくったり、先人の知を手に入れたりしてきたはずです。



　そうして手に入れてきた知をプレゼンテーションによって披露し、評価者と分かち合うわけです。そして、その内容をもとに評価者は自らが持つ知をまた分かち合い、探究・研究活動をより良いものとします。大学の学びというのは、まさにこういう知の巨人たちとの対話（dialogue）によって豊かになります。
　ですから、プレゼンテーションの評価を怖がらないでください。今まで積み重ねてきた探究・研究の姿をもとに、大学の先生方とともに探究・研究をより良いものにしてこようという心持ちで試験に臨んでください。
　そのためには、入念な準備が必要です。その準備は知の巨人たちと対話をするためには不可欠です。もちろん持っている知の量は差がありますが、それでもどこまでわかっていて、どこがわからないのか、わからないならばもっと知ろう、知りたい、という気持ちがとても大事です。自分が知っていることは大体他者は知っていることですから、もっともっと知りたい、学びたいという気持ちは持ち続けてほしいと思います。
　この講座で養った知は大学生活においても、これからの未来づくりにおいても役立ちます。実力を持って、本気で試験に臨んできてください。きっとあなたの未来が開けるよう、私も心から祈っています。頑張ってきてください！

神崎 史彦

巻末資料　プレゼンテーション　ルーブリック

ルーブリックとは、学習の達成度の評価指標を表で示したものです。縦軸は評価の観点、横軸は学習者の到達度を示します。なお、それぞれの評価基準を文章で表現していますが、抽象的に示していますので、評価基準の文章と自分のプレゼンのシナリオ案や実際の練習の様子と照らし合わせ、まずは自分なりに「このあたりはできている（できていない）」という評価をしてみてください。そして、次のレベルに到達するにはどのようなことをする必要があるのかを考え修正してください。目安として、すべての項目がB評価以上になるように頑張ってみてください。

項目		評価ポイント	S	A	B	C	F
知識・技能	学部・学科の学びに必要な知識・教養	学部・学科での学びの理解に必要な知識（高校卒業までに身につけてほしいもの）をもとにした内容	課題に対して、高校の課程を超えた知識をもとに内容を構成している。	課題に対して、高校の課程を修了する程度の知識をもとに内容を構成している。	課題に対して、高校の課程を修了する程度の知識としては一部不足するものの、おおよそそれらをもとに内容を構成している。	課題に対して、高校の課程を修了して内容を構成している部分と、そうとは言いがたい部分がある。	課題に対して、高校の課程を修了しているとは言いがたい内容である。
	高校における学力の習得および本学のカリキュラム修了に耐えられる学力の有無	本学のカリキュラム修了が可能な学力が高校で身についていること	内容に対する質疑応答が学術的観点・高校の学習内容と照らし合わせて適切であり、本学のカリキュラム修了が見込める学力が十分に備わっている。	内容に対する質疑応答が学術的観点・高校の学習内容と照らし合わせておおよそ適切であり、本学のカリキュラム修了が見込める学力がおおよそ備わっている。	内容に対する質疑応答に学術的観点・高校の学習内容と照らし合わせて一部疑問を呈する部分があり、本学のカリキュラム修了が見込める学力について不安要素がある。	内容に対する質疑応答に学術的観点・高校の学習内容と照らし合わせて疑問を呈する部分が多々あり、本学のカリキュラム修了が見込める学力にばらつきがあったり、不安要素が多分にあったりする。	内容に対する質疑に答えられず、高校までの学力が判定できないため、本学のカリキュラム修了が見込めるかどうか判断できない。
思考力・判断力・表現力等	質問の意図の理解	発表内容と発言内容の一致およびそれらをもとにした回答	質問の意図を理解し、合理的かつ発展的な回答をしている。	質問の意図を理解し、合理的な回答をしている。	質問に対して、適切に回答している。	質問に対して回答しているが、質問者の意図を理解していない。（例えば、意図を理解する姿勢がないまま反論したり、知ったかぶりをしたりする。）	質問に対して、回答できていない。（例えば6W1Hに即した回答ができていないなど。）
	一貫した思考のもとでの判断	発表内容と発言内容の一致およびそれらをもとにした回答	発表内容と返答発言が一致・一貫しており、かつ発展的な回答を行っている。	発表内容と発言が一致・一貫している。	発表内容と発言が一部一致・一貫しないところがある。	発表内容と発言が一致・一貫しないところが多い。	発表内容と発言が一致・一貫しない。
	具体・抽象・複眼思考	① 発表内容および回答の具体性 ② 具体的な説明の抽象化 ③ 対比等による複眼思考・メタ思考	具体・抽象を重ねながら、発表内容の構成・回答の説明を行っている。また、対比等を加えながら複眼思考で課題を捉えている。	具体・抽象を重ねながら、発表内容の構成・回答の説明を行っている。	具体・抽象を重ねながら、一部理解困難なものの、おおよその内容の構成・回答の説明が行えている。	内容の構成・回答の根拠の説明が具体的にできずに抽象論で終えたり、具体的な内容が抽象化できずに整理できていない。	具体・抽象を交えながら内容の構成・回答ができていない。（例えば調べたものをそのまま列記したと思われる内容だったり、回答を丸暗記で答えてたり、試験官が質問しても答えられなかったりするなど。）

巻末資料　プレゼンテーション　ルーブリック

項目		評価ポイント	S	A	B	C	F
思考力・判断力・表現力等	深い思考	発表内容および回答の根拠の深掘り	表層的な発表内容ではなく、その問題が発生するシステムや価値観まで捉えている。	表層的な発表内容ではなく、その根拠を深掘りしている。	表層的な発表内容ではなく、合理的な根拠を添えている。	表層的な発表内容ではなく、根拠を添えているが、一部合理的な内容とは言いがたい。	表層的な発表内容に留まり、根拠の合理性に乏しい。（例えば、自己に息づく文化や道徳観に対する考察なしに感覚・感情的な内容であるなど。）
	内容の構成	① 明確な構成 ② 時間配分 ③ 内容の明瞭さ	内容の構成が明確で、制限時間を最大限活用し、発表した。また、内容に明瞭さがあり、試験官が学術的に納得、もしくは高校までの履修内容と照らし合わせて合理性のある内容であった。	内容の構成が明確で、制限時間をオーバーせずに発表した。内容はおおよそ明瞭で、試験官に伝わるものであった。	内容の構成が明確で、内容は明瞭だったが、制限時間をオーバー、もしくは極端に時間が短かった。	内容の構成もしくは内容に難があった。	内容の構成もしくは内容が課題の要求に沿ったものではなかった。
	資料の表現	① 見やすいデザイン ② 読みやすい文章 ③ 図版の活用	発表内容に合わせて優れたデザインを施すとともに、読みやすい文章や図版を用いて、試験官に製作意図が伝わりやすい資料を作成した。	発表内容に合わせて見やすいデザインを心がけ、意図が伝わる文章や図版を用いている。	発表内容に合わせて見やすいデザインを心がけたものの、一部見にくい箇所がある。もしくは、文章や図版はあるものの、製作意図が伝わりにくい。	デザインの意図がよくわからない。もしくは文章や図版の意図が伝わりにくい。	デザインの意図も、文章や図版の意図も伝わらない。
主体性を持って学ぶ態度	課題への積極的な取り組み	課題への積極的な取り組み	調査・研究活動に積極的に取り組んでおり、その成果を内容として表現している。また、質疑応答において、本学のカリキュラム修了に転用できるスキル・マインドを身につけているとみなせる回答をしている。	調査・研究活動に積極的に取り組んでいる。また、質疑応答において本学のカリキュラム修了に転用できるスキル・マインドを身につけているとみなせる回答をしている。	調査・研究活動に積極的に取り組んでいる。	調査・研究活動に取り組んでいるものの、積極的に参加している様子が見られない。	調査・研究活動に取り組んでいない。
	主体性	主体的な目標設定と努力	課題発表に取り組む際、たとえ苦手なことがあろうとも、自ら目標を定め、試行錯誤を重ねながら、目標達成に努めた。	課題発表に取り組む際、自ら目標を定め、試行錯誤を重ねながら、目標達成に努めた。	課題発表に取り組む際、自ら目標を定め、目標達成に努めたが、試行錯誤の様子が見られない。	課題発表に取り組む際、目標を定めているものの、達成しようと努めている様子が見られない。（例えば、教員・保護者等の他者に内容構成をしてもらったことがわかるなど。）	課題発表に取り組む際、自分の力で目標を定められず、努力の跡が見られない。（例えば教員・保護者等の他者に代行して作成してもらった形跡があるなど。）